

## **Oracle® Application Server 10g**

クイック・インストールおよびアップグレード・ガイド

10g (9.0.4) for HP Tru64 UNIX

**部品番号 : B13870-01**

2004 年 5 月

**ORACLE®**

# 1 概要

Oracle Application Server を本番環境へインストールする前、またはコンピュータに Oracle ソフトウェアがインストールされている場合は、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドおよび Oracle Application Server 10g のリリース・ノートを参照することをお勧めします。

このマニュアルでは、次の Oracle Application Server のインストール・タイプのインストール手順について説明します。

- J2EE and Web Cache
- Portal and Wireless

表 1 に、このマニュアルの内容を示します。

**表 1 このマニュアルの内容**

章	内容
第 1 章「概要」	
第 2 章「ご注文内容の確認」	

## 2 クイック・インストールおよびアップグレード・ガイド

**表 1 このマニュアルの内容（続き）**

<b>章</b>	<b>内容</b>
第 3 章「要件」	3.1 項「ハードウェア要件のチェック」
	3.2 項「ソフトウェア要件のチェック」
	3.3 項「インベントリ・ディレクトリのグループの作成」
	3.4 項「データベース・グループの作成」
	3.5 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」
	3.6 項「環境変数のチェック」
	3.7 項「カーネル・サブシステム属性の構成」
	3.8 項「ポート使用状況のチェック」
	3.9 項「CD-ROM または DVD のマウント」
	3.10 項「インストーラの起動」

**表 1 このマニュアルの内容（続き）**

<b>章</b>	<b>内容</b>
第 4 章 「インストール ル」	4.1 項 「Java 開発者トポロジのインストール」 4.2 項 「Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール」 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 4.2.1 項 「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」</li><li>■ 4.2.2 項 「Portal and Wireless インスタンスのインストール」</li></ul> 4.3 項 「「ようこそ」 ページへのアクセス」
第 5 章 「OracleAS Metadata Repository の既存のデータベース へのインストール」	

表 1 このマニュアルの内容 (続き)

章	内容
第 6 章「アップグレード」	6.1 項「表記規則」
	6.2 項「アップグレード前のタスクの実行」
	■ 6.2.1 項「Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール」
	6.3 項「J2EE and Web Cache のアップグレードの実行」
6.4 項「Portal and Wireless のアップグレードの実行」	
第 7 章「その他の情報」	7.1 項「クイック・リファレンス」
	7.2 項「オラクル製品のインストールに関する情報」
	7.3 項「Oracle Technology Network Japan」
	7.4 項「OracleDirect」
	7.5 項「サポート・サービス」
	7.6 項「研修サービス」

---

---

**注意：** 既存の Oracle ホームがあるコンピュータにインストールする場合は、インストールの前に **Oracle Application Server 10g** のインストール・ガイドをお読みになることをお勧めします。Oracle 製品がインストールされているかどうかを確認するには、`/var/opt/oracle/oraInst.loc` ファイルが存在するかどうかを確認してください。

---

---

**関連項目：**

- Oracle Application Server 10g のインストール・ガイド
- Oracle Application Server 10g のアップグレード・ガイド

## 2 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されていません。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Documentation CD

Documentation CD には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

---

---

**注意：** メディア・パックによって、Start Here CD や Documentation CD が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

---

---

## 3 要件

この章では、Oracle Application Server のインストール要件について説明します。次の項の一覧にあるタスクを確認し、完了しておくことをお勧めします。

- 3.1 項「ハードウェア要件のチェック」
- 3.2 項「ソフトウェア要件のチェック」
- 3.3 項「インベントリ・ディレクトリのグループの作成」
- 3.4 項「データベース・グループの作成」
- 3.5 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」
- 3.6 項「環境変数のチェック」
- 3.7 項「カーネル・サブシステム属性の構成」
- 3.8 項「ポート使用状況のチェック」
- 3.9 項「CD-ROM または DVD のマウント」
- 3.10 項「インストーラの起動」

### 3.1 ハードウェア要件のチェック

ご使用のコンピュータが次のディスク領域要件およびメモリー要件を満たしていることを確認します。

項目	Java 開発者 トポロジ	Portal and Wireless 開発者のインストー ル・タイプ	OracleAS Infrastructure 10g
メモリー	512 MB	1 GB	1 GB
ディスク領域	1.30 GB	2.10 GB	4.40 GB
/tmp 内の領域	400 MB	400 MB	400 MB
スワップ領域	1.5 GB	1.5 GB	1.5 GB

インストーラでは、ディスク領域の要件の数値が正確でない場合があります。前述の表に示されているディスク領域の要件の数値を参照してください。

1. 物理 RAM サイズを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# prtconf | grep Memory
```

2. 空きディスク領域の大きさを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
prompt> df -k dir
```

**dir** を Oracle ホーム・ディレクトリに、あるいは、Oracle ホーム・ディレクトリがまだ存在しない場合はその親ディレクトリに置き換えます。たとえば、Oracle Application Server を /opt/oracle/infra にインストールする場合は、**dir** を /opt/oracle または /opt/oracle/infra に置き換えることができます。

3. 使用可能なスワップ領域の大きさを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/swapon -s
```

必要な場合、追加のスワップ領域の構成方法については、ご使用のオペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

## 3.2 ソフトウェア要件のチェック

Tru64 UNIX Systems に Oracle Application Server をインストールする前に、次の手順を完了します。

1. 次のコマンドを入力して、HP Tru64 UNIX V5.1B 以上がインストールされているかどうかを確認します。

```
# /usr/sbin/sizer -v  
Compaq Tru64 UNIX V5.1B (Rev. 2650); Mon Nov 3 10:13:28 PST 200
```

この例で表示されているバージョンは、**V5.1B** です。必要な場合、オペレーティング・システムのアップグレードについては、ご使用のオペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

2. Java SDK 1.4.2-3 がインストールされていることを確認します。
  - a. 次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i JAVA142 | more
```

Java SDK 1.4.2 がインストールされている場合、このコマンドによって、インストールされているすべてのファイルのパスが表示されます。Java のホーム・ディレクトリのパス（`/usr/opt/java142` など）を記録します。このパスは、インストール中およびこの次の手順で指定する必要があります。

このコマンドによって、不明なサブセットが戻された場合、Java SDK 1.4.2 はインストールされていません。手順 c に進みます。

- b. 次のコマンドを使用して、Java SDK のバージョンを表示します。ここで、`java_home` は、前の手順で記録したパスです。

```
# java_home/bin/java -fullversion
```

Java SDK 1.4.2-3 がインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

```
java full version "1.4.2-3"
```

バージョンが Java SDK 1.4.2-3 より前の場合は、手順 c に進みません。

- c. SDK 1.4.2-3 以上がインストールされていない場合は、次の Web サイトから Java SDK 1.4.2-3 以上をダウンロードして、インストールします。

<http://h18012.www1.hp.com/java/download/unix/1.4.2/index.html>

---

---

**注意：** このダウンロードの場所は、変更される場合があります。ダウンロードの最新の場所については、Oracle Application Server 10g のリリース・ノートのインストール、移行およびアップグレードの問題に関する説明を参照してください。

---

---

3. 次のコマンドを入力して、必要なソフトウェア・サブセットがすべてインストールされていることを確認します。

```
# /usr/sbin/setld -i | more
```

必要なソフトウェア・サブセットは、次のとおりです。

```
OSFCMPLRS  
OSFLIBA  
OSFPGMR  
OSFSER  
OSFX11
```

インストールされてないソフトウェア・サブセットがある場合は、インストールします。Compaq C Compiler V6.5-207 (dtk)が必要な場合は、次の Web サイトからダウンロードできます。

```
http://www.tru64unix.compaq.com/dtk/
```

4. 次のコマンドを入力して、必要なパッチがすべてインストールされていることを確認します。

```
# /usr/sbin/dupatch -track -type kit
```

必要なパッチは、次のとおりです。

- Tru64 UNIX V5.1B パッチ・キット 2 以上：  
T64V51BB22AS0002-20030415
- HP Tru64 UNIX V5.1B PK2 (BL22) 初期リリース・パッチ・キット (同じファイルの排他ロックが複数のアプリケーションに付与される問題に対する修正)：  
T64KIT0021665-V51BB22-E-20040220
- Tru64 UNIX V5.1B PK2/BL22 初期リリース・パッチ (発生する可能性のあるアプリケーション・コア・ダンプに対する修正)：  
T64KIT0021681-V51BB22-E-20040223
- HP Tru64 UNIX (IP マルチキャスト・パケットに関する問題)：  
T64KIT0019662-V51BB22-E-20030818
- HP Tru64 UNIX 5.1B PK2 BL22 (\_OtsMove での AdvFS パニックおよび発生する可能性のあるメモリー破損に対する修正)：  
T64KIT0020879-V51BB22-E-20031125

このコマンドを実行しても、前述の必要なパッチ・キットのリストに示す識別子またはパッチ・キットの上位レベルの識別子が表示されない場合は、次の Web サイトから最新のパッチ・キットをダウンロードして、インストールします。この Web サイトへのアクセスには、登録が必要です。

<http://itrc.hp.com/service/patch/mainPage.do>

5. Oracle Application Server 10g (9.0.4) を実行するには、Motif 2.1 の特別なバージョンが必要です。Motif の必要なバージョンのダウンロードについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://h18012.www1.hp.com/java/download/unix/1.4.2/index.html>

---

---

**注意：** このダウンロードの場所は、変更される場合があります。ダウンロードの最新の場所については、Oracle Application Server 10g のリリース・ノートインストール、移行およびアップグレードの問題に関する章を参照してください。このリリース・ノートは、OTN-J から入手できません。

---

---

### 3.3 インベントリ・ディレクトリのグループの作成

製品ファイルを所有するために、ローカルのオペレーティング・システム・グループを作成します。グループにはどのような名前でも付けることができますが、このマニュアルでは oinstall という名前を使用します。oinstall グループを作成するには、root ユーザーとして次のように入力します。

```
# /usr/sbin/groupadd oinstall
```

オペレーティング・システムのユーザーとグループの詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

### 3.4 データベース・グループの作成

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用されます。

次のコマンドを使用して、dba および oper の 2 つのグループを作成します。

```
# /usr/sbin/groupadd dba
# /usr/sbin/groupadd oper
```

### 3.5 オペレーティング・システム・ユーザーの作成

ユーザーにはどのような名前でも付けることができますが、このマニュアルでは oracle という名前を使用します。このユーザーは、oinstall オペレーティング・システム・グループに属している必要があります。

Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合は、このユーザーを dba および oper のオペレーティング・システム・グループにも追加する必要があります。

Java 開発者トポロジの oracle オペレーティング・システム・ユーザーを作成するには、root ユーザーとして次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall oracle
```

Portal and Wireless 開発者トポロジの oracle オペレーティング・システム・ユーザーを作成するには、root ユーザーとして次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall -G dba,oper oracle
```

オペレーティング・システムのユーザーとグループの詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

次のコマンドを入力して oracle ユーザーのパスワードを設定し、画面上の指示に従います。

```
# passwd oracle
```

## 3.6 環境変数のチェック

oracle ユーザーとしてログインする場合は、表 2 に示す環境変数の値を確認します。

---

---

**注意：** 別のユーザーとして環境変数を設定し、後に "su - oracle" コマンドを使用して oracle ユーザーに切り替えた場合は、環境変数が oracle ユーザーに渡されません。インストーラを起動する前に、必ず環境変数を確認してください。

---

---

表 2 環境変数

環境変数	説明
DISPLAY	現在のコンピュータに設定します。 例 (C シェル) : <pre>% setenv DISPLAY machine1.acme.com:0.0</pre> 例 (Bourne/Bash/Korn シェル) : <pre>\$ DISPLAY=machine1.acme.com:0.0; export DISPLAY</pre>

表 2 環境変数（続き）

環境変数	説明
TMPDIR および TMP	<p>インストーラで /tmp 以外のディレクトリを使用するには、環境変数 TMP および TMPDIR に、かわりのディレクトリのフルパスを設定します。oracle ユーザーは、このディレクトリへの書き込み権限を持っている必要があります。</p> <p>例 (C シェル) :</p> <pre>% setenv TMP /tmp2 % setenv TMPDIR /tmp2</pre> <p>例 (Bourne/Korn シェル) :</p> <pre>\$ TMP=/tmp2; export TMP \$ TMPDIR=/tmp2; export TMPDIR</pre>
ORACLE_HOME	<p>インストーラによって、この値の設定が解除されます。</p>

表 2 環境変数（続き）

環境変数	説明
PATH、CLASSPATH および LD_LIBRARY_PATH	<p>これらの変数にいずれの Oracle ホーム・ディレクトリへの参照も含まれていないことを確認します。環境変数の値を表示するには、次の echo コマンドを使用します。</p> <p>例 (C シェル) :</p> <pre>% echo \$PATH</pre> <p>例 (Bourne/Bash/Korn シェル) :</p> <pre>\$ echo \$PATH</pre> <p>環境変数 PATH に Oracle ホーム・ディレクトリが含まれている場合は、この変数に Oracle ホーム・ディレクトリ以外の現在ディレクトリが含まれるように設定します。</p>
TNS_ADMIN	<p>この環境変数が設定されていないことを確認します。</p> <p>例 (C シェル) :</p> <pre>% unsetenv TNS_ADMIN</pre> <p>例 (Bourne/Bash/Korn シェル) :</p> <pre>\$ unset TNS_ADMIN</pre>

表 2 環境変数 (続き)

環境変数	説明
ORA_NLS33	<p>この環境変数が設定されていないことを確認します。</p> <p>例 (C シェル) :</p> <pre>% unsetenv ORA_NLS33</pre> <p>例 (Bourne/Bash/Korn シェル) :</p> <pre>\$ unset ORA_NLS33</pre>

### 3.7 カーネル・サブシステム属性の構成

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用できます。OracleAS Metadata Repository のデータベースをインストールします。

表の後に、値を確認して設定する方法を示します。

サブシステム	属性	推奨値
ipc	shm_max	4278190080 (4 GB から 16 MB を引いた値)
	shm_min	1
	shm_mni	256
	shm_seg	256
	ssm_threshold	rad_gh_regions[n] または gh_chunks 属性が vm サブシステムに設定されている場合にのみ、この属性を 0 に設定します。これ以外の場合は、値を変更しないでください。
	msg_mnb	360000
	msg_mni	2800
	msg_tql	2540
	sem_mni	52
	sem_msl	25
sem_opm	12	
sem_ume	42	

サブシステム	属性	推奨値
proc	per_proc_stack_size	8388608 (8 MB) <sup>1</sup>
	max_per_proc_stack_size	67108864 (64 MB) <sup>1</sup>
	per_proc_data_size	335544320 (320 MB)
	max_per_proc_data_size	2147483648 (2 GB)
	max_per_proc_address_space	RAM と等しいサイズまたは 1073741824 (1 GB) の大きい方の 値。
	per_proc_address_space	RAM と等しいサイズまたは 1073741824 (1 GB) の大きい方の 値。
	max_proc_per_user	2566
	max_threads_per_user	8192
vfs	fifo_do_adaptive	0
vm	new_wire_method	0

サブシステム	属性	推奨値
rdg	msg_size	32768
	max_objs	5120
	max_async_req	256
	max_sessions	500 (または、システムのすべてのデータベースの PROCESSES 初期化パラメータに 20 を加えた値の方が大きい場合は、その値以上。)
	rdg_max_auto_msg_wires	0
	rdg_auto_msg_wires	0
	rt	aio_task_max_num

<sup>1</sup> Oracle でサポートするこのパラメータの最大値は、512 MB です。

---



---

**注意：** パラメータの現在の値がこの表に示した値よりも大きい場合は、そのパラメータの値を変更しないでください。

---



---

これらのカーネル・パラメータに指定された現在の値を表示し、必要に応じてその値を変更するには、次の手順を実行します。

1. サブシステム属性の現在の値を表示するには、次のようなコマンドを入力します。

```
# /sbin/sysconfig -q subsystem
```

たとえば、**ipc** サブシステムの属性値を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/sysconfig -q ipc
```

2. 現在の値を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。
  - a. `/etc/sysconfigtab` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。たとえば、次のように入力します。

```
# cp /etc/sysconfigtab /etc/sysconfigtab.orig
```

- b. テキスト・エディタを使用して、次のようなファイルを作成し、変更するサブシステムおよび属性を指定します。

```
ipc:
    shm_max = 4278190080
    shm_min = 1
    shm_mni = 256
    shm_seg = 128
    msg_mnb = 360000
```

```
msg_mni = 2800
msg_tql = 2540
sem_mni = 52
sem_msl = 25
sem_opm = 12
sem_ume = 42
```

proc:

```
per_proc_stack_size = 8388608
max_per_proc_stack_size = 67108864
per_proc_data_size = 201326592
max_per_proc_data_size = 2147483648
max_per_proc_address_space = 4294967296
per_proc_address_space = 4294967296
max_proc_per_user = 2566
max_threads_per_user : 8192
```

- c. 次のようなコマンドを入力し、サブシステムの属性を /etc/sysconfigtab ファイルに追加します。

```
# /sbin/sysconfigdb -m -f filename
```

この例では、*filename* は手順 b で作成したファイル名です。

- d. 次のコマンドを入力して、システムを再起動します。

```
# /sbin/shutdown -r now
```

### 3.8 ポート使用状況のチェック

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用できます。

ポート 1521 でリスニングしているアプリケーションが他にある場合は、それらが別々のポートでリスニングするように設定する必要があります。

次のコマンドを使用して、ポート 1521 がコンピュータのアプリケーションによって使用されているかどうかを確認します。

```
prompt> netstat -an | grep 1521
```

出力を確認して、ポート 1521 が使用されているかどうかを確認してください。

ポート 1521 が OracleAS Metadata Repository によって使用されている場合は、そのポートを Portal and Wireless のインストールと共有できます。ポートの共有については、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドを参照してください。

ポート 1521 がサード・パーティのアプリケーションによって使用されている場合は、別のポートを使用するようにアプリケーションを構成する必要があります。ポートの共有については、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドまたはサード・パーティのドキュメントを参照してください。

### 3.9 CD-ROM または DVD のマウント

Oracle CD-ROM は、Rockridge Extensions 仕様の ISO 9660 フォーマットです。DVD は、DVD-ROM フォーマットです。

UNIX システム上で、ディスクを手動でマウントまたはアンマウントするには、root 権限が必要です。ディスクをドライブから取り出す前に、`umount` コマンドを使用してアンマウントします。

ディスクが自動的にマウントされているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
# ls /cdrom
```

ディスクがマウントされていない場合は、手動でマウントする必要があります。

次の説明では、ディスクのマウント・ポイントは `/cdrom` としています。使用しているマウント・ポイントと異なる場合は、すべての `cdrom` を正しいマウント・ポイント名に置き換えてください。

ディスクを手動でマウントするには、次の手順を実行します。

1. ディスクをディスク・ドライブに挿入します。

2. root ユーザーとしてログインし、すべてのユーザーがアクセスできるディスクのマウント・ポイント・ディレクトリを作成します。

```
% su
Password:
# mkdir /cdrom
# chmod 777 /cdrom
```

3. ディスク・ドライブをディスクのマウント・ポイント・ディレクトリにマウントします。

```
# /usr/sbin/mount -t cdfs -o nodefperm,noversion \
/dev/disk/cdrom0c /cdrom
```

4. root アカウントを終了します。

```
# exit
```

### 3.10 インストーラの起動

1. oracle ユーザーとしてログインします。"su - oracle" コマンドを使用して oracle ユーザーに切り替えた場合は、環境変数が oracle ユーザーに渡されないので、環境変数の値を再度確認します。
2. Oracle Application Server Disk 1 をディスク・ドライブに挿入します。

3. 「注意」の次に示すコマンドを実行して、ディスクから Oracle Universal Installer を起動します。

---

---

**注意：**

- Oracle Universal Installer の起動時は、root ユーザーとしてログインしないでください。root ユーザーとしてログインすると、Oracle Application Server の管理権限が root ユーザーにかざられてしまいます。
  - mount\_point ディレクトリ内でインストールを開始しないでください。このディレクトリ内でインストールを開始すると、インストール・ディスクを取り出せない場合があります。次に示す cd コマンドにより、現在のディレクトリがホーム・ディレクトリに変更されます。
- 
- 

CD-ROM ユーザーの場合：

```
prompt> cd  
prompt> /cdrom/runInstaller
```

DVD ユーザーの場合：

```
prompt> cd  
prompt> /cdrom/application_server/runInstaller
```

## 4 インストール

この章では、次の2つの Oracle Application Server のトポロジをインストールする方法を説明します。

- **Java 開発者トポロジ**: J2EE アプリケーションのデプロイとテストのための単純コンテナが必要な場合は、このトポロジをインストールします。詳細は、[4.1 項「Java 開発者トポロジのインストール」](#)を参照してください。
- **Portal and Wireless 開発者トポロジ**: OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless または Oracle Internet Directory や OracleAS Single Sign-On のような Identity Management サービスを使用するアプリケーションを開発する場合は、このトポロジをインストールします。このトポロジをインストールするには、OracleAS Infrastructure 10g をインストールする必要があります。詳細は、[4.2 項「Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール」](#)を参照してください。

これらのトポロジは、開発環境のためのものです。配置トポロジを含む他のトポロジについては、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドを参照してください。配置トポロジのための Oracle Application Server コンポーネントの共存を確認するには、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドを確認することをお勧めします。

## 4.1 Java 開発者トポロジのインストール

Java 開発者トポロジは J2EE and Web Cache インスタンスで構成され、ここで、J2EE アプリケーションをデプロイし、実行できます。

J2EE and Web Cache インスタンスをインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[3.10 項「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面: 「次へ」をクリックします。
3. これがこのコンピュータにインストールする最初の Oracle 製品である場合は、次の画面の要求に従ってインベント・ディレクトリを設定する必要があります。

### a. 「インベントリ・ディレクトリの指定」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスの入力」: インストーラでファイルを格納するディレクトリのフルパスを入力します。Oracle ホーム・ディレクトリとは異なるディレクトリを入力します。

例: /opt/oracle/oraInventory

「OK」をクリックします。

b. 「UNIX グループ名」画面

インベントリ・ディレクトリの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例: oinstall

「次へ」をクリックします。

- c. orainstRoot.sh の実行: 別のシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、oraInventory ディレクトリにあります。

「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH\_J2EE\_904

「パス」: インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは、Oracle ホーム・ディレクトリです。

例: /opt/oracle/OraJ2EE\_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、oracle ユーザーとして作成します。root ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面: この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。このインスタンスは、クラスタのすべてのコンピュータに自動的にインストールされることはありません。

クラスタ環境への Oracle Application Server のインストールについては、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドを参照してください。

このインストールを続ける場合は、「単一ノード・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面: 「Oracle Application Server」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「インストール・タイプの選択」画面: 「J2EE and Web Cache」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「中間層インストールの手順のプレビュー」画面: 「次へ」をクリックします。
9. 「インストール前の要件の確認」画面: ご使用のコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。

10. 「構成オプションの選択」画面：

この Oracle Application Server インスタンスでキャッシュ機能を使用する場合は、「OracleAS Web Cache」を選択します。

「Identity Management Access」を選択しないでください。

「OracleAS Database-Based Cluster」を選択しないでください。

「OracleAS File-Based Cluster」を選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

11. 「OracleAS インスタンス名と `ias_admin` パスワードの指定」画面：

「インスタンス名」：このインスタンスの名前を入力します。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例：J2EE\_904

「ias\_admin パスワード」および「パスワードの確認」：ias\_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは5文字以上で、そのうちの1文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

## 12. JDK ホーム・ディレクトリの選択

Java SDK 1.4.2-3（またはそれ以上）インストールへのフルパスを入力します。

「次へ」をクリックします。

## 13. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

## 14. root.sh の実行ダイアログ

---

---

**注意：** 要求されるまで `root.sh` を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、`root.sh` の実行を要求する画面が表示されます。

---

---

別のウィンドウで `root` ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。`root.sh` スクリプトが終了した後、`root.sh` の実行ダイアログで「OK」をクリックします。

「Configuration Assistant」画面には、Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。Configuration Assistant によって、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。

#### 15. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

## 4.2 Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール

このトポロジで、Portal and Wireless 中間層をインストールします。これにより、OracleAS Portal や OracleAS Wireless などのコンポーネントを使用するアプリケーションを配置できるようになります。Portal and Wireless 中間層には、OracleAS Infrastructure 10g が必要です。これは、Portal and Wireless 中間層をインストールする前にインストールしておきます。

### 4.2.1 OracleAS Infrastructure 10g のインストール

新規データベースと新規の Oracle Internet Directory を持つインフラストラクチャをインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、3.10 項「インストーラの起動」を参照してください。
2. 「ようこそ」画面: 「次へ」をクリックします。

3. これがこのコンピュータにインストールする最初の Oracle 製品である場合は、次の画面の要求に従ってインベント・ディレクトリを設定する必要があります。

a. 「インベントリ・ディレクトリの指定」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスの入力」：インストーラでファイルを格納するディレクトリのフルパスを入力します。Oracle ホーム・ディレクトリとは異なるディレクトリを入力します。

例：/opt/oracle/oraInventory

「OK」をクリックします。

b. 「UNIX グループ名」画面

インベントリ・ディレクトリの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例：oinstall

「次へ」をクリックします。

- c. oraInstRoot.sh の実行：別のシェルで root ユーザーとして oraInstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、oraInventory ディレクトリにあります。

「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH\_INFRA\_904

「パス」: Oracle ホーム・ディレクトリへのフルパスを入力します。

例: /opt/oracle/OraInfra\_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、oracle ユーザーとして作成します。root ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面: この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。

クラスタ環境への Oracle Application Server のインストールについては、Oracle Application Server 10g のインストール・ガイドを参照してください。

このインストールを続ける場合は、「単一ノード・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面: 「OracleAS Infrastructure 10g」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「インストール・タイプの選択」画面: 「Identity Management」および「OracleAS Metadata Repository」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「Infrastructure のインストール手順のプレビュー」画面: 「次へ」をクリックします。
9. 「インストール前の要件の確認」画面: ご使用のコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。  
3.8 項「ポート使用状況のチェック」を参照して、ポート 1521 が使用可能かどうかを確認します。
10. 「構成オプションの選択」画面:
  - 「Oracle Internet Directory」を選択します。
  - 「OracleAS Single Sign-On」を選択します。
  - 「Oracle Delegated Administration Services」を選択します。
  - 「Oracle Directory Integration and Provisioning」を選択します。
  - 「OracleAS Certificate Authority」を選択しないでください。

「High Availability Addressing」を選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

11. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面: 「推奨されるネームスペース:」を選択して、「次へ」をクリックします。
12. OracleAS Metadata Repository データベースを作成するための情報を入力します。

**a. 権限付きオペレーティング・システム・グループの指定画面**

この画面は、dba オペレーティング・システム・グループに属さないユーザーとしてインストーラを実行する場合に表示されません。

「データベース管理者 (OSDBA) グループ」: 属しているオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例: dbadmin

「データベース・オペレータ (OSOPER) ・グループ」: 属しているオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例: dbadmin

「次へ」をクリックします。

**b. データベースの識別の指定画面**

「グローバル・データベース名」: OracleAS Metadata Repository  
データベースの名前を入力し、コンピュータのドメイン名を  
データベース名に追加します。

例: asdb.acme.com

**SID: OracleAS Metadata Repository** データベースのシステム識別  
子を入力します。通常、これは一意のグローバル・データベー  
ス名ですが、ドメイン名は含めません。SID は、すべてのデータ  
ベースで一意である必要があります。

例: asdb

「次へ」をクリックします。

**c. SYS および SYSTEM ユーザーのパスワードの指定と確認画面**:

これらのデータベース・ユーザーのパスワードを設定します。  
これは、データベース管理に使用される権限付きアカウントで  
す。

「次へ」をクリックします。

d. データベース・ファイルの場所の指定画面：

「データベース・ファイルのディレクトリの入力または選択」：インストーラで OracleAS Metadata Repository データベース用のデータ・ファイルを作成するディレクトリを入力します。

例：/data\_partition/ias\_dbfiles/

「次へ」をクリックします。

e. データベース・キャラクタ・セットの指定画面：「デフォルト・キャラクタ・セットを使用」を選択します。

「次へ」をクリックします。

13. 「OracleAS インスタンス名と ias\_admin パスワードの指定」画面：

「インスタンス名」：このインスタンスの名前を入力します。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例：INFRA\_904

「ias\_admin パスワード」および「パスワードの確認」：ias\_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは5文字以上で、そのうちの1文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

#### 14. JDK ホーム・ディレクトリの選択

Java SDK 1.4.2-3（またはそれ以上）インストールへのフルパスを入力します。

「次へ」をクリックします。

#### 15. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

#### 16. root.sh の実行画面

---

---

**注意：** 要求されるまで `root.sh` を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、`root.sh` の実行を要求する画面が表示されます。

---

---

別のウィンドウで `root` ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。`root.sh` スクリプトが終了した後に、`root.sh` の実行ダイアログで「OK」をクリックします。

#### 44 クイック・インストールおよびアップグレード・ガイド

## 17. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

### 4.2.2 Portal and Wireless インスタンスのインストール

この手順により、Portal and Wireless インスタンスがインストールされ、[4.2.1 項「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」](#)でインストールしたインフラストラクチャを使用するように構成されます。

1. インストーラを起動します。詳細は、[3.10 項「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面: 「次へ」をクリックします。
3. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: 新しい Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH\_PORTAL\_904

「パス」: Oracle ホーム・ディレクトリへのフルパスを入力します。

例: /opt/oracle/OraPortal\_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、oracle ユーザーとして作成します。root ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

4. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面：この画面は、ハードウェア・クラスタの一部であるコンピュータにインストールする場合にのみ表示されます。

クラスタ環境への Oracle Application Server のインストールについては、Oracle Application Server 10g のインストレーション・ガイドを参照してください。

このインストールを続ける場合は、「単一ノード・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面：「Oracle Application Server」を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 「インストール・タイプの選択」画面：「Portal and Wireless」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「中間層インストールの手順のプレビュー」画面：「次へ」をクリックします。
8. 「インストール前の要件の確認」画面：ご使用のコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。

9. 「構成オプションの選択」画面：

「OracleAS Portal」を選択します。

「OracleAS Wireless」を選択します。

「次へ」をクリックします。

10. Oracle Internet Directory の接続情報を入力します。

a. 「Oracle Internet Directory への登録」画面

「ホスト名」：Oracle Internet Directory を実行しているコンピュータの名前を入力します。

「ポート」：Oracle Internet Directory がリスニングしているポートのポート番号を入力します。Oracle Internet Directory のポート番号を特定するには、インフラストラクチャの

ORACLE\_HOME/install ディレクトリ内にある portlist.ini ファイルを確認してください。

「この Oracle Internet Directory には SSL 接続のみ使用」を選択した場合は、portlist.ini ファイル内の Oracle Internet Directory (SSL) パラメータからポート番号を入手する必要があります。

「次へ」をクリックします。

**b.** 「Oracle Internet Directory に対するログインの指定」画面

「ユーザー名」: 「orcladmin」と入力します。これは、Oracle Internet Directory 管理者の名前です。

「パスワード」: orcladmin のパスワードは、インフラストラクチャの ias\_admin ユーザーのパスワードと同じです。このパスワードは、インフラストラクチャをインストールしたときに入力したものです (4.2.1 項「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」の手順 13 を参照)。

「次へ」をクリックします。

**11.** Metadata Repository の選択画面

「リポジトリ」: この中間層インスタンスで使用する OracleAS Metadata Repository を選択して、「次へ」をクリックします。

**12.** 「OracleAS インスタンス名と ias\_admin パスワードの指定」画面:

「インスタンス名」: このインスタンスの名前を入力します。1 つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: PORTAL\_904

「ias\_admin パスワード」および「パスワードの確認」: ias\_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

### 13. JDK ホーム・ディレクトリの選択

Java SDK 1.4.2-3 (またはそれ以上) インストールへのフルパスを入力します。

「次へ」をクリックします。

### 14. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

### 15. root.sh の実行ダイアログ

---

---

**注意：** 要求されるまで `root.sh` を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、`root.sh` の実行を要求する画面が表示されます。

---

---

別のウィンドウで `root` ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。`root.sh` スクリプトが終了した後に、`root.sh` の実行ダイアログで「OK」をクリックします。

「Configuration Assistant」画面には、Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。Configuration Assistant によって、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。

#### 16. 「インストールの終了」画面：

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

### 4.3 「ようこそ」ページへのアクセス

インストールの後に Oracle Application Server の「ようこそ」ページにアクセスして、インストールに成功したことを確認します。「ようこそ」ページの URL は、次のとおりです。

```
http://hostname:http_port
```

`ORACLE_HOME/install` ディレクトリにある `portlist.ini` ファイルを確認して、`http_port` を特定します。`http_port` は、"Oracle HTTP Server listen port" 行に表示されます。

---

---

**注意：** 1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがインストールされている場合は、各インスタンスが独自のポート番号のセットを持っています。正しいポート番号を使用していることを確認するには、`portlist.ini` ファイルを確認してください。

---

---

「ようこそ」ページには、次のような役立つページへのリンクが含まれています。

- Oracle Application Server 10g (9.0.4) の新機能
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control (Application Server Control)。これは、ブラウザベースの管理ツールです。
- リリース・ノート
- デモ

## 5 OracleAS Metadata Repository の既存のデータベースへのインストール

OracleAS Metadata Repository を既存の Oracle データベースにインストールする場合は、Oracle Application Server Repository Creation Assistant (OracleAS RepCA) と呼ばれるツールを実行します。このツールによって、OracleAS Metadata Repository のデータが既存のデータベースにロードされます。

OracleAS RepCA とその関連情報については、『Oracle Application Server Repository Creation Assistant 既存のデータベースへの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール』を参照してください。

## 6 アップグレード

この章では、J2EE and Web Cache のインストール・タイプ、および Portal and Wireless インストール・タイプの OracleAS Portal コンポーネントを、リリース 2 (9.0.2) またはリリース 2 (9.0.3) から Oracle Application Server 10g (9.0.4) にアップグレードする方法を説明します。

この章では、インフラストラクチャ内で OracleAS Portal スキーマをアップグレードする方法については説明しません。

この章には、アップグレード・プロセスの多くを自動化する、Oracle Application Server Upgrade Assistant (OracleAS Upgrade Assistant) の使用手順も含まれています。

**関連項目：** Oracle Application Server 10g のアップグレード・ガイド

この章では、次の項目について説明します。

- 6.1 項「表記規則」
- 6.2 項「アップグレード前のタスクの実行」
- 6.3 項「J2EE and Web Cache のアップグレードの実行」
- 6.4 項「Portal and Wireless のアップグレードの実行」

## 6.1 表記規則

第6章では、Oracle ホームへの参照に次の表記規則を使用します。

- リリース 2 (9.0.2) またはリリース 2 (9.0.3) Oracle Application Server インスタンスは、パス名の中で `<source_MT_OH>` として指定されます。
- 10g (9.0.4) インスタンスは、パス名の中で `<desination_MT_OH>` として指定されます。

## 6.2 アップグレード前のタスクの実行

アップグレード前に、次の項のタスクを実行します。

- 6.2.1 項「Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール」
- コンポーネント特有のアップグレード前のタスクについては、Oracle Application Server 10g のアップグレード・ガイドを参照してください。

### 6.2.1 Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール

アップグレード前に、Oracle Application Server 10g (9.0.4) をインストールする必要があります。Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール中に、J2EE and Web Cache または Portal and Wireless のインストール・タイプを選択します。Oracle Application Server の宛先インスタンスがない場合、アップグレードは行われません。(新しいインフラストラクチャをインストールしないでください。)

ソース・インスタンスのインストール・タイプは、宛先インスタンスのインストール・タイプと一致している必要があります。Oracle Application Server のソースおよび宛先インスタンスは、同じコンピュータ上に存在している必要があります。ソース・インスタンスでインフラストラクチャが使用されている場合は、宛先インスタンスでも、同じ Oracle Internet Directory とメタデータ・リポジトリが使用されています。(新しいインフラストラクチャをインストールしないでください。) 9.0.4 のインストールでは、ソースの 9.0.2 インストールと同じ oraInventory ディレクトリを使用する必要があります。

---

---

**注意：** インストール前のすべての要件が満たされ、関連するすべての手順が手動で実行されていることが重要です。そうでない場合、10g (9.0.4) のインストールはリリース 2 (9.0.2) のインフラストラクチャとともに機能しません。特に、OracleAS Single Sign-on の構成は失敗します。

---

---

---

---

**注意：** インストール中に、OracleAS Metadata Repository 内の OracleAS Wireless スキーマがアップグレードされます。

---

---

#### 関連項目：

- 4.1 項「Java 開発者トポロジのインストール」
- 4.2 項「Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール」

### 6.3 J2EE and Web Cache のアップグレードの実行

J2EE and Web Cache インスタンスをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して、Application Server Control を停止します。

```
<source_MT_OH>/bin/emctl stop  
<destination_MT_OH>/bin/emctl stop iasconsole
```

2. J2EE and Web Cache インスタンス内で、次のコマンドで、Web Cache、OPMN、およびそれによって管理される Oracle Application Server プロセスを停止します。

```
<source_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall  
<source_MT_OH>/webcache/bin/webcachectl stop  
<destination_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall
```

3. 表 2 に示すように環境変数 DISPLAY を設定します。
4. 次のコマンドで、OracleAS Upgrade Assistant を起動します。  
`<destination_MT_OH>/upgrade/iasua.sh`
5. 「ようこそ」画面：「次へ」をクリックします。
6. 「Oracle ホーム」画面：  
ドロップダウン・リストからソースの J2EE and Web Cache の Oracle ホームを選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「コンポーネントの調査」ダイアログ画面：  
「OK」をクリックします。
8. 「要件」画面：  
すべての要件が満たされていることを確認し、すべてのチェック・ボックスにチェックマークを付けて、「次へ」をクリックします。
9. 「サマリー」画面：  
「完了」をクリックして、アップグレード処理を開始します。
10. 「アップグレードに成功しました」ダイアログ画面：  
「OK」をクリックします。

**関連項目：** アップグレードした J2EE and Web Cache の構成が次のいずれかの状態にあるときは、Oracle Application Server 10g のアップグレード・ガイドの実行する必要があるアップグレードの手動タスクに関する項を参照してください。

- ファイルがデフォルト以外の場所にある
- 構成ファイルがカスタムのファイルおよびディレクトリを参照する
- 10g (9.0.4) 内で使用するデフォルトのドキュメント・ルート・ディレクトリ内に静的ドキュメントおよびディレクトリがある
- 最初のリスナーとして Web Cache 構成されている

## 6.4 Portal and Wireless のアップグレードの実行

Portal and Wireless 中間層をアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して、Application Server Control を停止します。

```
<source_MT_OH>/bin/emctl stop  
<destination_MT_OH>/bin/emctl stop iasconsole
```

2. J2EE and Web Cache インスタンス内で、次のコマンドで、Web Cache、OPMN、およびそれによって管理される Oracle Application Server プロセスを停止します。

```
<source_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall  
<source_MT_OH>/webcache/bin/webcachectl stop  
<destination_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall
```

3. [表 2](#) に示すように環境変数 DISPLAY を設定します。
4. 次のコマンドで、OracleAS Upgrade Assistant を起動します。

```
<destination_MT_OH>/upgrade/iasua.sh
```

5. 「ようこそ」画面：

「次へ」をクリックします。

6. 「Oracle ホーム」画面：

ドロップダウン・リストから Portal and Wireless のソースの Oracle ホームを選択して、「次へ」をクリックします。

7. 「コンポーネントの調査」ダイアログ画面：

「OK」をクリックします。

8. 「要件」画面:

すべての要件が満たされていることを確認し、すべてのチェック・ボックスにチェックマークを付けます。「次へ」をクリックします。

9. 「サマリー」画面:

「完了」をクリックして、アップグレード処理を開始します。

10. 「アップグレードに成功しました」ダイアログ画面:

「OK」をクリックします。

**関連項目:** Parallel Page Engine または Portal Development Kit Services for Java がカスタマイズされていた場合は、Oracle Application Server 10g のアップグレード・ガイドの OracleAS Portal のアップグレードの実行に関する項を参照してください。これらのカスタマイズは、<source\_MT\_OH> 内のファイルから <destination\_MT\_OH> 内の対応するファイルにコピーする必要があります。

## 7 その他の情報

### 7.1 クイック・リファレンス

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/">http://otn.oracle.co.jp/</a>
インストール・マニュアルにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/tech/install/">http://otn.oracle.co.jp/tech/install/</a>
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	<a href="http://www.oracle.co.jp/support/">http://www.oracle.co.jp/support/</a>
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述します。)

### 7.2 オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL を参照してください。ただし、個々の環境に依存する問題または検証が必要となるようなケースでは、サポート・サービス（有償）の契約が必要になりますのでご了承ください。

□ OTN インストール・センター

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「テクノロジーセンター」 → 「インストール」

□ Oracle Technology Network 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「掲示板」 → 「ビギナー」の「初心者の部屋」

□ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「ドキュメント」 → 「製品名」 → 「OS」

□ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

「Oracle Internet Support Center」 → 「製品 FAQ 検索」

キーワード: 「インストール」、「install」など

上記を参照しても解決されないインストール時の不明点または問題点については支援サービスを提供しています。下記オラクル製品が対象になりますので次の URL から質問してください。

[http://www.oracle.co.jp/install\\_service/](http://www.oracle.co.jp/install_service/)

- 対象製品：  
Oracle Database Standard Edition  
Oracle Database Personal Edition  
Oracle9i Application Server Java Edition
- 対象 OS:  
Linux x86  
Microsoft Windows

### 7.3 Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する登録制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan に登録（無償）していただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイント・プログラム、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

#### □ OTN Japan 登録方法

<http://otn.oracle.co.jp/>

この URL から「OTN の歩き方」を参照してください。

#### □ 技術資料

<http://otn.oracle.co.jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目的とする技術資料を容易に参照できるわかりやすいカテゴリになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメント等とあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジーを体験できます。

□ ドキュメント

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノート等のドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルにいたるまで、最新のドキュメントをタイムリに掲載しています。

□ サンプル・コード

[http://otn.oracle.co.jp/sample\\_code/](http://otn.oracle.co.jp/sample_code/)

開発者に参考としていただけるよう、プログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

## □ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を使用して開発される皆様のためのコミュニティです。**Web**によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間での情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。**OTN** 掲示板専用のビューア「**OTN Viewer**」も使用していただけます。

## □ ポイント・プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/index.html>

**OTN Japan** 活性化に貢献された会員の皆様にポイント進呈する **OTN** ポイント・プログラムを設けています。獲得ポイントは **OTN** グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

## □ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/index.html>

**OTN** 有償プログラムは、**OTN** 会員の皆様向けの有償アップグレード・サービスです。**OTN Japan** サイトで提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスで使用していただける **OTN Software Kit**（日本語版 CD-ROM）の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスを提供します。

- お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

- お薦めサービス「エラー・メッセージ検索 (Oracle9i)」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索できます。

- お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では、配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1～2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様には是非ともお知らせしたいセミナーやイベント情報、製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

## 7.4 OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関するご質問をはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

□ お問い合わせ先

TEL: 0120-155-096

FAX: 03-4326-5020

Web 問合せ : <http://www.oracle.co.jp/contact/>

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirectにてお受けできるご質問内容は次のとおりとなりますので、ご連絡の前に確認をお願いいたします。

□ ご質問にお答えできる内容 (概要)

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
  - 出荷日、出荷予定日
  - 価格およびライセンス
  - システム要件
  - ハードウェア (メモリ容量、ディスク容量)
  - ソフトウェア (対応 OS、対応コンパイラなど)
  - 製品の基本機能 (カタログに記載されているレベルまで)

- 製品バージョン（RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内）
- サポート・サービス契約の概要  
サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディスプレイビューションセンターまでお願いいたします。
- カタログ、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
- お客様の個別環境への提案
- 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談

次のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関すること（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポート・レベル）

## 7.5 サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、Oracle Support Services をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support Services のサポート・サービス契約をお持ちのお客様は、次の技術サポートを受けられます。サポート・サービスには電話やインターネットによる技術サポートのほか、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

### □ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受け付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「Oracle Support User's Guide」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support Services について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## □ OiSC (Oracle internet Support Center)

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポート・サービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での Oracle Support NewsLetter の参照
- パッチのダウンロード
- お問合せの受付、更新、状況確認
- 下記 MetaLink へのリンク
- サービス内容のご紹介

## □ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000 タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

**MetaLink: Oracle Support Services** をご契約のお客様は、Web によるサポート・サービスである **MetaLink** を 24 時間ご利用いただけます。**MetaLink** は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。

## □ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報（Q&A、Oracle User バックナンバーなど）
- お客様へのご案内
- Oracle Support NewsLetter は OiSC でもご覧いただけます。

## □ お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター  
TEL: 0570-093812

受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support Services のサポート・サービス契約について、次のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート・サービス契約に関するご相談
- サポート・サービス契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート・サービス契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## 7.6 研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは下記までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL: 0120-155-092

FAX: 03-5766-4400

受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）